



政濤新報

年頭之辭

重大なる使命を自ら背負つて立つた吾が政濤新報。正義の旗を押し立て、勇ましくも社會に進み出た吾が政濤新報。今、茲に紙齡を加へるに當つて此の使命が果たされ、此のモットーのものと進んだかを考へて見る時甚だ慚愧に堪へないものがある。それは其の使命があまりに重大だからである、其のモットーが現社會に受け入れられないからである。本紙は使命遂行の爲めに更に一段の努力を誓ふ。歩一步其の基礎を築きやがて其の使命が果し得られる様努める力と勇氣と熱さを持つてゐる。意義深き 昭和第四の新春を迎ふるに當り過去の無力を啣つ前に新しい勇氣をもつて敢然として進む事を宣言する。

昭和四年一月

政濤新報社
編輯同人

新聞定價 一部 五錢
每月十五日一回發行
廣告料 場所指定 四十錢
福島縣平町白銀町十五番地
發行所 政濤新報社
福島縣石城郡四倉新町三十一番地
編輯印刷 武藤 豊
發行人 武藤 豊

味噌と 味噌
宗正らびた
社會名合崎山
町平縣島福
番〇一話電

銘酒 清世界 釀造元
各炭礦御用達
清水屋
石城郡小名濱町
電話 六番

町倉四郡城石
院醫馬門
番三四話電

石城郡大浦村
木村醫院
電話三三番

士議代
木村清治
比佐昌平

植田電力株式會社
金成通
石城郡植田町

植田物産株式會社
山崎登
石城郡植田町

縣會議員
鈴木辰三郎
山崎吉平
野崎滿藏
若松美三
鷺清昇

喪中に付年始欠禮仕候
古川傳一

磐城青年同盟會

謹賀新年
門馬倉次郎
三森虎雄
鈴木勇
西山正清
菅波康太郎
草野又藏
馬邊貞三
渡邊貞三
高崎義男
小林豊廣
木村守江

賀正 平町五丁目
釜屋商店
諸橋久太郎
諸橋守次郎
諸橋元三郎
電話長一三九番

天狗の群は踊る

彌次郎

市井に哲人 叫ぶも貪慾な彼等さらに 會議員の選舉だね、でも幾 回選舉を繰り返したところ で駄目さア、いつになつた つて同じぢやないか、馬鹿

明星うすらぎ 彼方へ墜ちて行く 光は消えさり 巷は暗闇となりぬ

アレヨ アレヨ 樂園の吊鐘は鳴り 浄らかな故郷泥土と化し 大天狗 小天狗 天狗の群は踊る

星は墜ちて行く 何處へ? 滅亡の溪谷へ

彼は讀んでゐた、詩であら いか、いやそれは詩ではな い、では彼の讀んでゐるの はなんだ、それがなんだあ

妙に淋しい氣持になつてし まつたのである。 彼はいま彼の友人と話して

「二月には町長、五月は町 會議員の選舉だね、でも幾 回選舉を繰り返したところ で駄目さア、いつになつた つて同じぢやないか、馬鹿

「先づ小から始めて大に及 ぶんだね」 「處で町長は二月で満期だ

「いや、あの町長はどうかね」 「ありやあ駄目だ、あの

「彼等は自分達より能力の ある人は大嫌いなんだ彼等

「武者小路さんの書いたの

「前途には衰亡が在るばか

「吾々は先代人に笑はれる

市場と學科の価値

ナリ金にも種々あるが、米

「先づ小から始めて大に及 ぶんだね」 「處で町長は二月で満期だ

「いや、あの町長はどうかね」 「ありやあ駄目だ、あの

「彼等は自分達より能力の ある人は大嫌いなんだ彼等

「武者小路さんの書いたの

「こんな態度でいつたら將來

町村會議員 本年五月

選挙日割

昭和四年五月三十日泉村

昭和三十二年五月三十日

昭和三十二年五月三十日

謹賀新年

藥品雜貨部 深谷藥舖 石城郡四倉町 電話二八番

精米業 菅波康太郎 石城郡四倉町

赤津 一 石城郡勿來町

赤津修一 石城郡勿來町

鈴木長壽 石城郡草野村

鈴木喜三郎 石城郡草野村

新妻恭孝 石城郡草野村

井上茂作 平町二丁目

磐城配給所 星製藥株式會社 專務取締役 駒木根忠三 會計主事 大井川和郎

何を讀もうか

和歌蘭

愚人の無駄話ぐらいくらぬものはない。この世智辛い資本主義の社會に生活して、時間と努力との經濟に賢明なる人々は、こんな話を聞いたら輕蔑と嘲笑として投げないであらうか。Aは机に向つてぼんやり本を眺めてゐた。Bが訪ねてきた。『なにをしてゐる、やア「マルクス」を讀んでゐるのか。』流行れども難解なるマルクス君も難解組の仲間か。『そうだね、難解？然し俺は眞面目に讀んだことがないからなんとも言ふ資格はない、それに眞に理解するなんていふ事には至つて無關心だ、拾年このかた「マルクス」の物を氣まぐれに讀んでゐる俺には……』『へえ、君にして拾年たア驚くね、まるで「マルクス」の亡靈に取りつかれたみたいだ。』『よくいふね、資本論は難解だつて、處が俺のは難解を素通りして全然解らねえ、尤も俺は原書は讀まない……讀めないんだ……』『から邦譯本に就て云ふのだが、定評のある高島さんの舊譯本を讀んだときにあゝまるで霧の中を彷徨してゐるやうでどつちに向つて進んでゐるのか、んで見當すらの文章が最少の場所に出來る限り大きな内容を壓搾し、マルクスそのものではない、改譯本 新潮社版だ。非難されてゐる、だが學問ゐるんだ。』『君の讀んでゐるのは高島さんやうと試みた、それで彼は俺なんざア解らずに讀んでゐる、改造社の普及版や全集が出たんで田舎の人達でも令最善の指導者を持つてゐる、かなり讀むやうだ、この村でも各人が自ら骨折し登らなことをなりやうだ。』『田舎に限つたこととはな、讀者がある、だがお定に難解の嘆聲を洩してゐるんだ。』『そうかい。阿武隈河畔に生れた情熱的哲人があつたね、「痛ましき生存」一篇を遺して利根川邊で情死を遂げた、あの哲人が新聞に書いた物を讀んだことがあつた、哲人は少年時代に獨者といふ譯か、然しマルクスで哲學書に親しんでゐたが、なんとしても解らない處があつたので隣村にある物俗資本論、資本論入門、資識りな人の處へ往つて質本論の言ふには哲學といふのは鐵の學問だ、こりや固い學問だからちつとばかり噛つたつてな、解るものぢやない、教へた、幼い哲人は歸りながら悲しくなつて田浦道で聲を揚げて泣いてしまつたさうだ。』『アハ……鐵の學問とは傑作だつた。』『俺は「マルクス」の本をみてゐると云ふだけで村の青年から種々なことを聞かせることがあつた、その際俺はいつでも此の哲人の話を持出してごまかすよ。』『リノブクネット』が「カイマルクス追憶」に言ふてゐるね、確かに資本論の文は難解だ、と云ふのはその文章が最少の場所に出來る限り大きな内容を壓搾し、マルクスそのものではない、改譯本 新潮社版だ。非難されてゐる、だが學問ゐるんだ。』『君の語ちア田舎ではマルクスの解る人が無いやうだ、そんな病を根治する方村の若者から借りて讀んでみたが。』『あの本は青年に讀者があるさうだね。』『マルクスは宗教的信仰による流行だし社會科學者……』

謹賀新年

Table with columns for various organizations and individuals, including names like 湯本温泉旅館組合, 東部電力株式會社, 江名郵便局長, etc.

謹賀新年

御料理
御旅館

海氣館
常磐線四倉町
電話五番

御料理
御旅館

柏屋旅館
常磐線四倉町
電話一九番

玉山鑛泉

玉屋旅館
石城郡大野村
館主 馬 上 豐

玉山鑛泉

石屋旅館
石城郡大野村
館主 草 野 又 藏

玉山鑛泉

藤屋旅館
石城郡大野村
館主 高 木 勝太郎

村會議員

西山正清
石城郡大野村

高級
常設

平館
館主 松田卯次郎

關内油店
平町二丁目
店主 關内正一

福島縣石城郡豐間村
大
大敷事務所
電話一一番

福島縣小名濱町
合資
會社
小名濱大網漁場
電話五二番

石城郡銀行組合

四倉銀行會社組合

平町料理屋組合

入山採炭株式會社
入山坑務所

磐城炭礦株式會社
內鄉鑛業所

古河炭礦好間鑛業所

小田炭礦株式會社
社長 萩原申八

小田吉次

郡山銀行組合

中之作鐵工場

吉田正雄
石城郡江名町

小名濱漁業組合
組合長 立花雄七

二本松電氣株式會社
小名濱支店

四倉電氣株式會社
新妻盛
中野拾與

石城郡第一區 小學校長會

石城郡第二區 小學校長會

石城郡第三區 小學校長會

石城郡第四區 小學校長協議會

平町公立 學校長懇話會

平町搔槌小路 仙臺屋靴店
官衙會社 御用達 店主 廣野勤太夫

片倉製絲紡績株式會社

郡山支店
平出張所

堀江工業株式會社

江口忠一
平町

平町會議員一同

平町旅館組合

平材木商業組合

平三業保健組合

銘酒近盛
馬目支店
平町田町 電話二五四番

酒井嘉藏
石城郡磐崎村

白鳥鑛泉
春木屋
福島縣石城郡磐崎村

四倉藝妓屋組合
石城郡四倉町

御料理
御旅館
新米
石城郡小名濱町
電話八番

御料理
御旅館
山田屋
本店
別館
石城郡植田町
電話八番

小玉萬平
石城郡川部村

吉田盛治
石城郡大野村

小名濱 株式會社
水産
石城郡小名濱町

四倉漁業組合
組合長 長谷川寅次郎

伊藤淺之助
石城郡飯野村